

# 第49期事業報告書

(平成17年2月1日～平成18年1月31日)

証券コード：7956



社団法人発明協会 第27回未来の科学の夢 絵画展 幼稚園の部 発明協会会長賞「タイヤのエアバッグ」

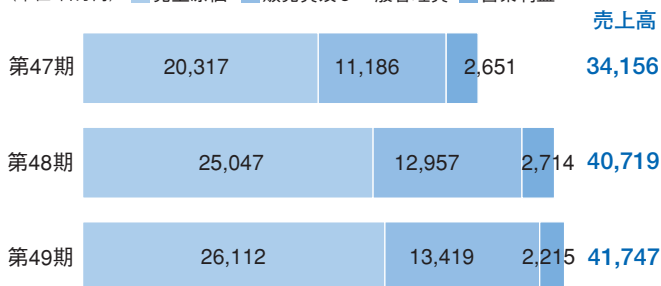
富士幼稚園（群馬県館林市）海宝 悠生ちゃん

大水で車が流されそうになった時、タイヤのそばのゴムボートが、エアバッグのようにふくらんで、スクリューが回り船のように動きます。

# 決算ハイライト ● ● ●

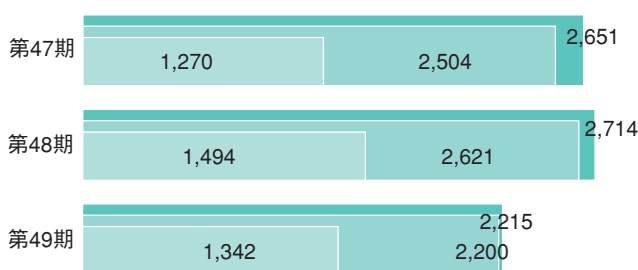
## 売上高と原価・経費の推移

(単位:百万円) ■ 売上原価 ■ 販売費及び一般管理費 ■ 営業利益



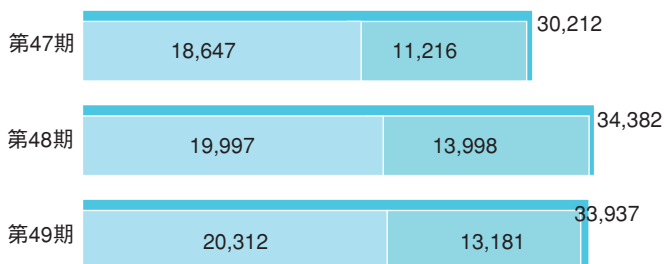
## 利益の推移

(単位:百万円) ■ 当期純利益 ■ 経常利益 ■ 営業利益



## 財務の構成

(単位:百万円) ■ 株主資本 ■ 負債 ■ 総資産



## 売上 2.5%増

(連結売上高/前期比)

国内育児用品事業は出生数の減少、価格競争の激化など厳しい環境でしたが、子育て支援事業は順調に推移いたしました。また、海外事業では、中国を中心とした東アジアおよび中近東、北米、ヨーロッパ市場が大幅に伸長したため、売上高は前期を10億27百万円上回り、417億47百万円となりました。

## 損益 16.1%減

(連結経常利益/前期比)

経常利益は前期と比べ4億21百万円減少し、22億円となりました。大幅に伸長した海外事業などプラス要因はありましたが、ピジョンブランドの再構築のためテレビコマーシャルを放映するなど広告宣伝費が増加したことと、少子化に伴う国内市場の競争激化による利益率の低下が影響しました。

## 資産 1.3%減

(連結総資産/前期比)

総資産は前期末に比べ4億44百万円減少し、339億37百万円となりました。これは、大きな投資がなかったことが主因ですが、グループ全体を通しての資金管理をこれまで以上に徹底し、資産の効率的運用を推進したことによります。

## グローバルに企業価値の最大化をめざす 「第二次中期経営計画」が順調にスタート

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃のご支援に対して、厚く御礼申し上げます。

当期の国内経済は、雇用の改善や所得の増加等によって消費が回復するなど着実に明るさを増しています。しかし、一方で原油価格の上昇に伴う原材料の高騰等、先行き不透明感を払拭できないことも事実です。また、出生数の減少がさらに進むなど少子化が加速する傾向にあり、依然として厳しい市場環境にあるといえます。

当社グループは、こうした市場環境に対応しつつ、将来の事業基盤を確立するために第二次中期経営計画「企業価値の創造21“グローバル500”」を策定いたしました。その初年度にあたる当期においては、コア事業である国内育児用品事業、また、成長分野として位置づけている海外事業、子育て支援事業、ヘルスケア事業のすべての分野で積極的に事業活動を展開いたしました。

その結果、少子化が進行する国内の育児用品事業は引き続き厳しい状況にあるものの、海外事業は中国を中心とした東アジア、北米市場で着実に売上を伸ばしました。また、ヨーロッパ市場の開拓も順調に進んでおります。子育て支援事業では、「保育園の公設民営化」の拡大や「次世代育成支援対策推進法」などを追い風に順調に業績を伸ばしているほか、ヘルスケア事業についてもグループとしてのシナジー効果が向上しつつあります。

当社グループは本年1月に、グループ各事業の発展的拡大、国内育児用品事業の再構築、さらにはHHC・介護用品事業の育成および拡大を促進するために組織体系を再編いたしました。また、本年6月予定の本社移転に伴い、本社近辺におきまして5箇所に分散していた事業所を集約いたします。これにより、企業体質の強化を図るとともに、各事業の一層の成長を図っていきたいと考えます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年4月 代表取締役社長

杉村 誠一



## 中国、北米市場に続きヨーロッパ市場も開拓。海外

国内市場が少子化傾向の継続・加速化で厳しい状況にあるなか、海外事業は、すでに中期経営計画の売上目標であった80億円を達成するなど順調に推移しています。

米国の連結子会社LANSINOH LABORATORIES,INC.を販売拠点として売上拡大をめざした北米市場では、売上高、経常利益とも順調に推移し、市場での優位性を確保しています。また、新たな市場開拓先であるヨーロッパ市場においてもイギリス・ドイツを中心に着実にシェアを拡大しております。

さらに中国市場では、旺盛な需要の拡大を背景に目標を上回る売上高を達成しており、マーケットも沿岸部の大都市である北京、上海、広州のデパートや専門店を中心としたものから内陸部へと拡大しています。海外事業は「成長分野」として位置づけられる事業であり、今後も東アジアなどの生産拠点との連携を強化しながら、さらなる成長を図ってまいります。

### 北米市場の状況と展望

### 母乳育児に特化したブランド戦略で信頼を獲得

北米においては、乳児の健康・安全上の理由から約75%のお母さまが母乳での子育てを希望しています。しかし、乳首のケアが難しいことから母乳育児を断念する方も少なくなく、当社ではそうしたお母さま方の悩みを手助けしたいとの思いから、LANSINOH LABORATORIES,INC.の主力商品である「乳首ケアクリーム」を中心に市場展開を図ってまいりました。

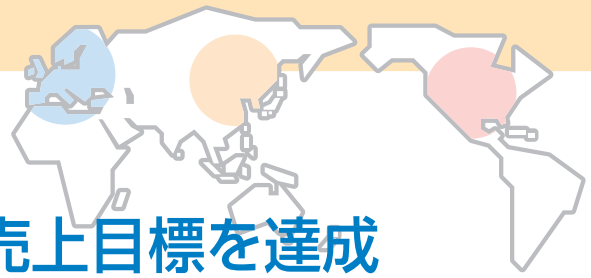
実際、こうした当社の理念は幅広い支持を獲得しており、「乳首ケアクリーム」の市場占有率は84%（2005年12月現在）に達しています。また、各種ブランド人気調査でも約80%の方が同社を支持してくださっているほか、育児コンサルタントなどの専門家の多くが同社の商品を推奨するにいたっています。

現在、北米市場には「母乳パッド」や「母乳フリーザーパック」などを投入していますが、それぞれ対前期比120%、140%の伸びを示すなど順調に推移しています。また、北米市場は人口が増加傾向にあるなどマーケットが拡大基調にあり、今後もこれまで築き上げてきたブランドイメージを大切にしながら、さらなる売上の拡大を図ってまいります。



ディスカウントセンター（米国）





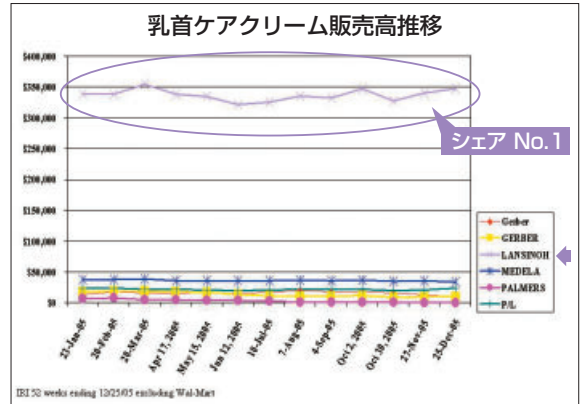
# 事業は中期経営計画初年度で売上目標を達成

## ヨーロッパ市場の状況と展望 → 4年半のビジネス展開で400万ドル市場へ成長

多くの母乳推進家や母乳育児を行っているお母さま方から高い信頼を米国で獲得したLANSINOH LABORATORIES, INC.社の「乳首ケアクリーム」の販路拡大を目的に、新たなマーケットとして、4年半まえにヨーロッパ市場へ進出いたしました。

ヨーロッパの育児事情は、国によって違いはあるものの母乳育児が主流です。市場開拓にあたり、まず病産院や育児の専門家の方などに商品の品質を訴求することから始めてまいりました。その後母乳育児を主流とするお母さま方の需要を喚起し、現在では約400万ドルの売上を確保できるところまでできております。また、イギリス、ドイツに営業拠点を設置し、市場環境に合わせた販売戦略を構築しております。

今後は、ヨーロッパ諸国のさらなる拡販に努めるとともに、ロシアやトルコなどの市場も開拓していき、中国、北米に続くマーケットとして確立してまいります。



## 中国市場の状況と展望 → 沿岸部の都市から内陸部へと販路、ブランドが浸透

当社では、1990年代後半から輸出を始め、2002年にPIGEON (SHANGHAI) CO.,LTD.を設立するなど、中国市場を重要なマーケットとして位置づけてまいりました。すでに、沿岸部にある北京、上海、広州などの都市部では経済成長などに伴って需要が拡大しており、商品に対する高い信頼感が浸透するのに比例して、売上高も前期と比べ約2倍以上を達成しております。

また、ブランド力とともに販路も内陸部へと拡大し、現地のローカルブランドに対する競争力を高めるために投入した「Neo」とともに、着実に新たなマーケットを開拓しております。



中国のサブブランド「Neo」

# TOPICS

—ピジョングループのこの1年の活動をご報告します—

新  
商  
品

2月

- 赤ちゃんがゆったりすわれ、軽くてコンパクトな「ライトシートLS-3」新発売



- 「ベビーフードレトルトカップシリーズ」に「鶏ときのこ釜飯」等5アイテム追加

- 調乳に便利な「ピュアウォーター」に500ml増量でお得になった「ピュアウォーター2L」新発売

- 「ママのメイクシリーズ」ルーセントパウダーとリップスティックに新色発売。また、新アイテムとしてリップグロスを発売



- 赤ちゃんの哺乳リズムでさく乳できる「ベビーズムさく乳器」2アイテム新発売



- 立体ギャザーでからだへのフィット性を高めた「ハピナス尿とりパッド 横モレ防止超高立体ギャザー」新発売



4月

- 軽くてリキャップできるペットボトルに飲みきりサイズの「ベビー飲料(200ml)」5アイテム新発売



2月

- 財団法人田附興風会医学研究所北野病院の院内保育所「北野保育所」受託運営開始
- 第5回ジャパンドラッグストアショーに出展

3月

- ピジョンホームプロダクツ(株)ピジョンピュア事業部が健康食品博覧会に出展
- 「春日キッズワールド」(福岡県福岡市)オープン

4月

- 多比良(株)名古屋営業所をピジョン名古屋支店3階へ統合
- 東京都認可保育園「大田区立東蒲田保育園」受託運営開始
- ピジョンハーツ(株)がヤマハ発動機(株)の事業所内保育園「わいわいランド」受託運営開始
- ピジョンハーツ(株)が東京電力(株)との協働研究事業としてテブコワーク&キャリアスクールにおいて「保育士ブラッシュアップ講座」開講
- 社会福祉法人神奈川総合リハビリテーションセンター事業団の院内保育園「こども園」受託運営開始

5月

- 第1回ピジョン・インフォのWeb会員「オフ会」東京にて開催(参加者780名)
- 第19回赤ちゃん誕生記念植樹祭実施
- 前橋赤十字病院の院内保育所「みどり保育園」受託運営開始



6月

- PIGEON INDUSTRIES (THAILAND) CO.,LTD.がタイ資源エネルギー庁より「Energy awards 2005 (省エネルギー賞)」受賞

主  
な  
出  
来  
事

8月

- 乳液配合でウンチ汚れが落ちやすくなった「おしりナップ (ミルクィ&ふっくら)」新発売



- 成長に合わせてステップアップできる「マグマグ」が使いやすく進化して新発売
- 「ママのメイクシリーズ」にファンデーションなしでもきれいに描ける「ママのアイブロウ」新発売

9月

- 赤ちゃんのわきにぴったりフィットして、ママにも持ちやすい形状の赤ちゃん専用電子体温計「チビオンフィット」新発売



- 赤ちゃんの手にぴったりサイズでおいしい「元気アップカルシウムおやつ」8アイテム新発売
- 赤ちゃんの発育に大切な葉酸をはじめビタミンB群、鉄分など妊娠・授乳期に必要な栄養素がとれるサプリメント「葉酸プラス」新発売

10月

- 乳酸菌とオリゴ糖が一度にとれて飲みやすいサプリメント「乳酸菌プラス」新発売



11月

- 妊娠・出産で“肌感”が変わったママへ「ママのスキンケアシリーズ」(化粧水・乳液・クリーム) 新発売



8月

9月

10月

11月

12月

1月

7月

- 第1回プレパパ・プレママ向けイベント「仲良しマタニティクラス」東京にて開催
- 海外投資家を対象とした会社説明会をシンガポールにおいて実施
- プライバシーマーク付与認定を受ける
- 医療法人財団姫路聖マリア会の院内保育所「マリア保育所」受託運営開始



10月

- 「チビオンフィット」「マグマグ」シリーズが2005年度グッドデザイン賞を受賞
- ピジョン・インフォのWeb会員「オフ会」東京に続いて大阪にて開催
- 「おしりナップ」TV-CM全国8局放映



9月

- 第32回国際福祉機器展に多比良(株)と初めての合同出展
- マタニティ向けネットショップ「ピジョンマタニティ」スタート  
<http://www.p-maternity.com/>



12月

- 東京都認可保育園「練馬区立光が丘第八保育園」受託運営開始
- コンプライアンス体制整備

1月

- 第20回赤ちゃん誕生記念育植樹キャンペーン募集開始

## 営業の概況

# コア事業は競争優位性の高い商品を投入 成長分野はグループのシナジー効果を活用

## 経済および市場動向

国内の経済状況は、企業の設備投資が増加し、雇用環境も改善に向かうなど全般的に拡大基調で推移しています。また、厳冬の影響で冬物商品の一部に品切れが出るなど消費の面でも上向きに転じているといえます。しかし、少子化が加速するなど楽観を許さない状況も継続しており、当社グループでは、「第二次中期経営計画」を策定し、各々の事業分野の成長および発展に努めてまいりました。

## 育児事業の概況

国内育児用品事業は、少子化が加速する傾向にあるのに加え、「おしりナップ」をはじめとした消耗品の価格下落が続くなど、依然として厳しい状況に置かれています。

当社グループはこうした中でも、「妊娠・出産から子育ての感動と喜び」を多くの方にお伝えしたいと考え、これまで築き上げてきた育児に関する独自性と競争優位性を発揮できる新商品を市場に投入してまいりました。とりわけ競争の激しい「おしりナップ」では便の汚れを落とし、赤ちゃんのデリケートなお肌の保護を目的に乳液を配合した新商品を発売、TV-CM等で認知を図りましたが、業績を向上させるまでにはいたりませんでした。

子育て支援事業は、公立保育園の運営を民間に委託する「公設民営化」が拡大しており、当期においては東京都大田区と練馬区で新規に2園の受託実績を残すことができました。また、ヤマハ発動機株式会社をはじめとした新規

事業所内保育園の運営を受託し、一昨年4月に独立行政法人化した全国の国立病院機構の院内保育園113箇



ビジョンランド

所の運営とともに、順調に業績は伸長しております。

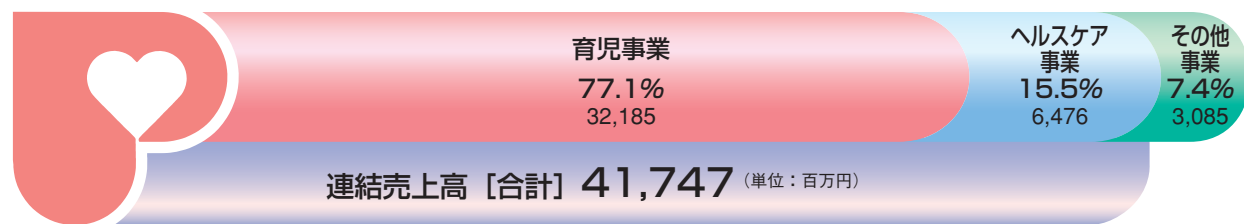
海外事業については、中国を中心とした東アジア市場および北米市場が順調に業績を向上させているとともに、ヨーロッパ市場の開拓も進み、すでに中期経営計画で掲げた売上目標を初年度で達成するにいたっています。国別の売上実績では、中国、韓国、台湾の主要国をはじめ、すべての国において前年実績を上回り、商品別の売上実績でも哺乳びん、乳首、母乳パッドを中心に販売実績を伸ばしております。なお、タイや中国の連結子会社、さらには北米・ヨーロッパで事業を展開する連結子会社LANSINOH LABORATORIES,INC.の業績も順調に推移しており、海外事業の好業績は連結子会社の生産、販売のシナジー効果が発揮されたことに起因していると考えております。

※海外事業の現状と展望については、3~4頁もご覧ください。





## 事業別売上高構成比



### ● ヘルスケア事業の概況

ヘルスケア事業の主力商品である「尿とりパッド」は、「横モレ」を防止する尿失禁対策パッド『ハビナース尿とりパッド横モレ防止「超高」立体ギャザー』を新発売、市場でのシェア拡大を目指してまいりました。同事業は連結子会社である多比良(株)との商品開発、営業、物流面でのシナジーを発揮することで育児事業に次ぐ中心的事業にすることをめざしておりますが、前年実績にはいたりませんでした。



ハビナース スキンケア用品

また、在宅介護支援サービスの連結子会社ピジョン真中株式会社は、地域に密着したサービスの提供を展開し順調に業績を伸ばしています。

### ● その他事業の概況

その他事業では、マタニティのインナーウェアを製造販売する連結子会社ピジョンウィル株式会社が業績を拡大しています。また、妊娠・授乳期に必要な栄養素を一粒に配合し、飲みやすさを追求したビタミンサプリメント「葉酸プラス」(保健機能食品)も売上増を達成し、その他事業の売上は前年実績を上回りました。



葉酸プラス

乳酸菌プラス

### 当期の業績について

当連結会計年度の売上高は417億47百万円(前期比2.5%増)、経常利益22億円(前期比16.1%減)、当期純利益は13億42百万円(前期比10.2%減)となりました。配当金は1株当たり普通配当20円(中間配当として1株につき10円をすでにお支払いしております)といたしました。また、当社単独の業績は、売上高は293億51百万円(前期比3.3%減)、経常利益5億12百万円(前期比60.3%減)、当期純利益は4億87百万円(前期比46.3%減)となっております。

## ● 連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

		第49期 平成18年1月31日現在	第48期 平成17年1月31日現在	増 減
1	資 産 の 部			
	流 動 資 産	15,260	15,744	△ 484
1	固 定 資 産	18,677	18,637	40
	資 産 合 計	33,937	34,382	△ 444
2	負 債 の 部			
	流 動 負 債	11,574	11,119	455
2	固 定 負 債	1,606	2,878	△ 1,272
	負 債 合 計	13,181	13,998	△ 817
3	少 数 株 主 持 分	443	386	57
	資 本 の 部			
3	資 本 金	5,199	5,199	—
	資 本 剰 余 金	5,146	5,145	1
3	利 益 剰 余 金	11,052	10,149	902
	その他有価証券評価差額金	38	△ 5	43
3	為 替 換 算 調 整 勘 定	△ 204	△ 431	227
	自 己 株 式	△ 920	△ 60	△ 859
3	資 本 合 計	20,312	19,997	315
	負債、少数株主持分及び資本合計	33,937	34,382	△ 444

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 14,304百万円 13,513百万円  
2. 1株当たり当期純利益 67円84銭 74円22銭

※ 百万円未満は切り捨てています。

## ● 連結剰余金計算書 (要旨)

(単位：千円)

		第49期 平成17年2月1日から 平成18年1月31日まで
資 本 剰 余 金 の 部	資 本 剰 余 金 期 首 残 高	5,145,608
	資 本 剰 余 金 増 加 高	1,081
	資 本 剰 余 金 期 末 残 高	5,146,690
利 益 剰 余 金 の 部	利 益 剰 余 金 期 首 残 高	10,149,781
	利 益 剰 余 金 増 加 高	1,342,579
	利 益 剰 余 金 減 少 高	439,864
	利 益 剰 余 金 期 末 残 高	11,052,496

※ 千円未満は切り捨てています。

### Point 1 連結資産

有利子負債の削減に向けた現金および預金の減少、国内事業の売上減少に伴う売上債権の減少などで流動資産は減少しました。生産設備増強を目的とした設備投資の実施などで固定資産は増加しました。

### Point 2 連結負債

取引決済を手形による方法から切り替えるなどして資金効率の向上に努めたため、支払手形及び買掛金は減少しましたが、短期借入金等が増加したため、流動負債は増加しました。また、固定負債の減少は長期借入金の減少によるものです。

### Point 3 連結株主資本

自己株式取得の増加による減少はあったものの、利益剰余金をはじめ、その他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の増加により資本合計は前期末に比べ3億15百万円増加しました。株主資本比率は前期の58.2%から59.9%へ上昇しました。

#### [連結の範囲に関する事項]

次の12社を連結の対象にしています。  
 ビジョンホームプロダクツ(株) ビジョンウィル(株)  
 ビジョンハーツ(株) PHP兵庫(株) PHP茨城(株)  
 ビジョン真中(株) 多比良(株)  
 PIGEON SINGAPORE PTE.LTD.  
 PIGEON(SHANGHAI)CO.,LTD.  
 PIGEON INDUSTRIES(THAILAND)CO.,LTD.  
 THAI PIGEON CO.,LTD. LANSINOH LABORATORIES,INC.

#### [持分法の適用に関する事項]

次の2社について持分法を適用しています。  
 クラフレックス茨城(株) P.T. PIGEON INDONESIA

## ●連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

		第49期 平成17年2月1日から 平成18年1月31日まで	第48期 平成16年2月1日から 平成17年1月31日まで	増減
4	売上高	41,747	40,719	1,027
	売上原価	26,112	25,047	1,064
	販売費及び一般管理費	13,419	12,957	461
	営業利益	2,215	2,714	△499
	営業外収益	364	339	24
	営業外費用	378	431	△53
5	経常利益	2,200	2,621	△421
	特別利益	56	168	△111
	特別損失	72	177	△104
	税金等調整前当期純利益	2,184	2,613	△429
	法人税、住民税及び事業税	682	980	△297
	法人税等調整額	92	46	46
	少数株主利益	66	91	△25
6	当期純利益	1,342	1,494	△152

※ 百万円未満は切り捨てています。

## ●連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

		第49期 平成17年2月1日から 平成18年1月31日まで	第48期 平成16年2月1日から 平成17年1月31日まで	増減
	営業活動によるキャッシュ・フロー	1,765	4,286	△2,520
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,668	△2,850	1,182
	財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,018	△1,881	863
	現金及び現金同等物に係る換算差額	56	△9	65
	現金及び現金同等物の増減額	△864	△455	△409
	現金及び現金同等物の期首残高	2,768	3,223	△455
	現金及び現金同等物の期末残高	1,903	2,768	△864

※ 百万円未満は切り捨てています。

### Point 4 連結売上高

ヘルスケア事業が4.2%減となったものの、育児事業は3.5%増、女性ケア用品販売などのその他事業は7.8%増となりました。8割近い売上構成を占める育児事業のなかでも、市場拡大と生産拠点整備の相乗効果によって海外事業の業績は拡大しており、厳しい環境の国内事業をカバーしました。

### Point 5 連結経常利益

消耗品の価格下落が継続するなか営業利益は18.4%減少しました。効率的な資金管理による支払利息の減少と為替差益の増加などによって営業外収支は改善したものの、経常利益は前期比16.1%の減少となりました。

### Point 6 連結当期純利益

特別損益はほぼ前期と同様であったものの、事業税の会計処理区分変更（販管費計上）などにより、純利益は経常利益段階のマイナス幅を改善し、10.2%減少となりました。

### Point 7

#### 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動による収入は前期比58.8%減の17億65百万円となりました。利益の減少と取引先との決済方法変更などによる仕入債務の純減が主な要因です。投資活動では前期のような新規子会社株式取得による多額の投資がなく、支出額は41.5%減少の16億68百万円となりました。財務活動は、借入金の返済に加え自己株式取得などにより10億18百万円（前期比45.9%減）の支出となりました。

## ● 貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

	第49期 平成18年1月31日現在	第48期 平成17年1月31日現在	増 減
資 産 の 部			
流動資産	10,481	11,005	△ 524
固定資産	16,609	15,795	814
資産合計	27,091	26,800	290
負 債 の 部			
流動負債	8,176	6,124	2,051
固定負債	865	1,859	△ 993
負債合計	9,041	7,983	1,058
資 本 の 部			
資本金	5,199	5,199	—
資本剰余金	5,146	5,145	1
利益剰余金	8,584	8,537	47
その他有価証券評価差額金	38	△ 5	43
自己株式	△ 920	△ 60	△ 859
資本合計	18,049	18,817	△ 768
負債及び資本合計	27,091	26,800	290

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額

8,051百万円  
24円61銭

7,914百万円  
45円01銭

2. 1株当たり当期純利益

※ 百万円未満は切り捨てています。

### お耳拝借 会社の用語

### 時価総額とは

時価総額は、「株価×発行済株式数」で算出する指標です。株式市場が株価を通じて評価したその企業の「値段」といってよいでしょう。売上高や利益などと同様、投資の物差しのひとつとして、近年とくに重要視されるようになってきました。時価総額により資金調達力に差が生じるだけでなく、企業買収に際し、現金の代わりに自社株が利用できるよになったり、時価総額が低ければ買収の対象になりやすい——など、時価総額が表わす企業価値への認識が改まっているためと考えられます。



## ● 損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

	第49期 平成17年2月 1日から 平成18年1月31日まで	第48期 平成16年2月 1日から 平成17年1月31日まで	増 減
売 上 高	29,351	30,349	△ 997
売 上 原 価	19,763	19,873	△ 109
販売費及び一般管理費	9,234	9,274	△ 40
営 業 利 益	353	1,200	△ 847
営 業 外 収 益	462	395	67
営 業 外 費 用	303	304	△ 1
経 常 利 益	512	1,290	△ 778
特 別 利 益	50	167	△ 116
特 別 損 失	32	27	5
税引前当期純利益	530	1,430	△ 900
法人税、住民税及び事業税	21	511	△ 490
法人税等調整額	22	12	9
当 期 純 利 益	487	906	△ 419
前 期 繰 越 利 益	4,992	4,464	528
中 間 配 当 額	197	161	35
当 期 未 処 分 利 益	5,282	5,209	73

※ 百万円未満は切り捨てています。

## ● 利益処分

(単位：千円)

当 期 未 処 分 利 益	5,282,608
固定資産圧縮積立金取崩額	22,583
計	5,305,191
これを次の通り処分いたしました。	
配 当 金 ( 1 株 に つ き 1 0 円 )	197,323
次 期 繰 越 利 益	5,107,867

(注) 平成17年10月17日に197,329千円(1株につき10円)の中間配当を実施いたしました。

※ 千円未満は切り捨てています。

# Stockholder's Voice

株主の皆様からたくさんの「声」をお寄せいただき、誠にありがとうございます。  
ピジョンは皆様の声を大切に、ご期待にお応えするため努力を重ねてまいります。

## Q コンプライアンスへの取り組みについてお聞かせください

### A リスクマネジメント体制について

当社グループのリスクマネジメント体制は、2003年に基本方針、規程整備を行い、その具体的手段を構築しています。その後、内部環境および外部環境の変化への対応として、2005年、リスクマネジメント体制を見直し強化をいたしました。

まず当社グループをとりまく様々なリスクを「事業リスク」「財務リスク」「ハザードリスク」「コンプライアンスリスク」として位置づけました。そして内部統制システムとしてのコンプライアンス・プログラムの整備を行いました。コンプライアンスへの取り組みが実効性を得るためには、『その実践が、社員の誇りを高め、株主、顧客、取引先、地域社会をはじめとするステークホルダーとの信頼を得るために必要なものである』という共通の認識を社員一人ひとりが自覚することが不可欠であると考えます。

### A ガイドブックの作成・配布

そこで、当社は役員および社員一人ひとりがコンプライアンスの趣旨を充分理解し、かつ実践を可能とするために、2005年12月にガイドブックを作成しました。

この作成にあたっては、まず、奥が深くかつ多岐にわたって使われることの多い、『コンプライアンス』ということばを法

令のみならず『企業倫理を遵守すること』と定義することから始め、企業倫理綱領とコンプライアンス関係規程として構成しました。企業倫理綱領は、社是『愛を生むは愛のみ』に示される創業以来の精神を引き継ぎ、具現化するため、社員一人ひとりが、より高い倫理観をもって誠実に行動するための規範を示しています。このガイドブックは全役員・社員に配布し、同時に説明会を開催することにより徹底を図っています。説明会におきましては、コンプライアンスについての代表的な事例を紹介し、常日頃社員それぞれがとるべき行動規範の概要を共有することを目的としています。

さらに、コンプライアンス実践において重要性を増していく連絡・相談用の窓口として“スピークアップ窓口”を設置しました。万が一、社内で問題が発見された場合には連絡・相談者への保護を十分に配慮した上でコンプライアンス会議を開催し、対応検討および事実関係の調査を進める体制を整えています。

今後に関しましても、社員一人ひとりが自覚と高い倫理観を持って行動すべく、さらに各部署、各部門、全社が一層強く取り組んでいくべき課題であると考えています。




## 株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施させていただくことといたしました。お手数ではございますが、右記の方法によるアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。

 <https://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 7956

 携帯電話からもアクセスできます  
QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本事業報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間(2006年6月末日まで)です。  
ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL: 03-5777-3900 MAIL: info@e-kabunushi.com

# ピジョン株式会社 会社概要

(平成18年1月31日現在)

設立年月日 昭和32年8月15日

事業内容 育児・マタニティ・女性ケア・ホームヘルス  
ケア・介護用品等の製造、販売および輸  
出入ならびに保育事業

資本の額 5,199,597千円

従業員数 968名  
上記は正社員および契約社員の人数です。

【主要事業所】

本社 東京都千代田区  
事業所 茨城県稲敷郡阿見町  
物流センター 茨城県稲敷郡阿見町・茨城県常陸太田市  
兵庫県神崎郡神河町（合併による表記変更）

研究所 茨城県つくばみらい市（平成18年3月の合併による表記変更）

営業所 札幌・仙台・大宮・東京・名古屋・大阪  
広島・福岡 他1ヵ所

【保育施設】

認可保育園 茨城県つくばみらい市、東京都大田区、  
東京都練馬区

認証保育所 東京都練馬区

保育、託児施設 大阪府吹田市 他2ヵ所

## 株式の状況

(平成18年1月31日現在)

- 会社が発行する株式の総数 60,000,000株
- 発行済株式の総数 20,275,581株
- 株主数 11,537名
- 自己株式 543,209株

### 大株主（上位10名）

	持株数(千株)	持株比率(%)
仲田洋一	4,743	23.39
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,157	5.71
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	688	3.40
指定単受託者三井アセット信託銀行株式会社(1口)	547	2.70
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	530	2.62
バンクオブニューヨークヨーロッパリミテッド ルクセンブルグ131800	487	2.40
ピジョン社員持株会	440	2.17
株式会社フクヨー	350	1.73
ドレスナー・クラインオート・ワツサースタイン 証券会社東京支店	285	1.41
日本生命保険相互会社	228	1.13

## 役員

(平成18年4月27日現在)

代表取締役会長 仲田 洋 一

代表取締役社長 松村 誠 一

専務取締役（経営企画本部兼管理本部担当）小川 徹 雄

常務取締役（マーケティング本部兼開発本部担当）大越 昭 夫

取締役（お客様相談室兼監査室担当）倉 嶋 喬

取締役（営業本部兼ロジスティクス本部担当）勝 木 尚

取締役（海外事業本部兼子育て支援事業部担当）太 田 和比古

常勤監査役 太 田 博 史

常勤監査役 色 部 文 雄

監査役（非常勤）西 山 茂

監査役（非常勤）出 澤 秀 二

執行役員（お客様相談室担当）山 本 春 美

執行役員（経営企画本部長）佐 久 間 隆

執行役員（経営企画本部IR・広報室担当）大 薮 克 実

執行役員（管理本部長）高 島 康 典

執行役員（マーケティング本部長）倉 知 康 典

執行役員（営業本部長）湯 田 博 毅

執行役員（開発本部長）甘 利 和 久

執行役員（ロジスティクス本部長）小 泉 朝 敬

執行役員（海外事業本部長）高 坂 功

執行役員（子育て支援事業部長）須 郷 達 也

(注) 監査役 西山 茂および出澤 秀二の両氏は、株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律第18条第1項に定める社外監査役であります。

## ●株主メモ

決算期	毎年1月31日
定時株主総会	毎年4月中
配当金	毎年1月31日（ただし、中間配当を行う場合は7月31日） 最終の株主名簿および実質株主名簿に登録されている株主 または登録質権者にお支払いいたします。
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同事務連絡先 （お問合せ先） （郵便物送付先）	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-707-696（フリーダイヤル）
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
手数料	名義書換 当社名義書換代理人へ直接お持込みの場合無料 新株券交付 その新株券発行に係る印紙税相当額
1単元の株式の数	100株
単元未満株式の 買取請求取扱場所	上記名義書換代理人がお取り扱いいたします。ただし、 実質株主名簿に登録（株券保管振替制度により株券を預託） されている場合は、お取引の証券会社等にお申し出ください。
公告の方法	電子公告* ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができ ない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 *URL ( <a href="http://www.pigeon.co.jp/">http://www.pigeon.co.jp/</a> )



### 表紙の絵について

当社は、未来の科学の夢絵画展「幼稚園の部」の発明協会会長賞並びに優秀賞を受賞された幼稚園に対して、当社前会長の故仲田祐一が幼児の創造性育成のために社団法人発明協会へ寄贈した基金により「仲田祐一奨励金」を毎年協会を通して贈呈しております。表紙の絵は同協会のご協力を得て掲載しているものです。

## ご案内

- ① 当社の配当金は、お取引銀行口座への直接入金方法をご利用いただきますと、迅速、確実にお受け取りになれます。
- ② 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。



この報告書は、環境に優しい大豆油インキを使用して印刷されています。

